

五所川原市の立佞武多広場が全国各地で広がる「恋人の聖地」に、県内で初めて認定された。世界的ファッションデザイナーで選定委員を務める桂由美さんから銘板を受けた市は、モニユメントの設置などの活用方法を検討するという。桂さんは「恋人の絆を深める、ここならではの守りを提供するなど、認定地としての効果を上げてほしい」と期待を寄せた。

「恋人の聖地」は2006年に設立されたNPO法人地域活性化支援センターが、全国の観光地の中からプロポースにふさわしいロマンチックなスポットを認定し、恋人たちが旅をするきっかけなどにしようというもの。非

恋のまち黒石

婚、未婚が招く少子化に歯止めをかける新たなアプローチとしても注目されている。立佞武多広場はいわゆる「街コン」のスタート地点で、平山誠敏市長は「若者を引き付ける魅力的なスポットにしたい」と意気込みを示す。弘前市も「恋人の聖地プロジェクト推進事業」に乗り出した。

よされなど資源の積極活用を

この動きに、ある黒石市民が「黒石こそ、ふさわしい」と話した。日本三大流し踊りに数えられる黒石よされは、500〜600年前に始まったと伝えられ、盆踊りの際の男女の「掛け合い唄」だったという。黒石よされが踊られる市中心部は、はるか昔から恋が生まれる場であったのだ。

黒石よされの由来をテーマにした「恋よされ」のモニユメントも、横町かくし広場にある。黒石よされを踊る2人がリングを掲げた像で、銘板には「二人の男女がここを訪れると、恋がかなうように願いを込めて建立したものです」とある。リングに開けられたハート型の穴に「さい銭」を入れる

いたり、アーチを並べたりするのもいい」との提案もあった。いいアイデアだ。小路をパーシロードに結婚式を行い、かくし広場でガーデン披露宴を開くなど、活用の夢が広がる。さらに城ヶ倉大橋の黒石側からは、早春のわずかな期間だけ八甲田の山肌に現れるハート型の雪形を眺めることができるともいい。

と、金属音を発しながら土台へと吸い込まれる。時にうまく入らないこともあることから、きちんと入ると願いがかなうという都市伝説的な話もある。この市民が「ふさわしい」とした理由がここにある。歩行者専用の理右衛門小路の正面に位置することから「イベントの時、小路に赤じゅうたんを敷いたり、35市町村が消滅する可能性があるというシヨッキングな試算がある。「恋よされ」をきっかけに、新たな世帯が生まれるのが一番だが、市外在住者であっても、結婚記念日に再訪する思いあっても、観光振興の地になる可能性はあり、観光振興も期待できるだろう。官民間わず柔軟な発想で活用を検討してほしい。